かわらちいきしげんほぜんかい

# 河原地域資源保全会

（山口県長門市油谷河原）

河原地域資源保全会の全景

連歌川への魚類生息場所の設置と
カバープランツ（ティフ・ブレア）の植栽

花蓮の群生地

学校教育との連携（脱穀）

## 基礎活動

忘れかけていた共同作業が活性化し、地域の連帯感や農地や施設への保全活動が一層深まってきました。

サイホン式水路の泥上げ

水路の泥上げ

農道の路肩法面の草刈

農道の砂利補充

ゲートの保守管理

農道の砂利補充

## 農地・水向上活動

本対策が始まる前は、行政まかせにしていた水路補修等であったが、この対策を契機に「自分たちの地域は、自分たちで守る。」という意識が芽生えてきました。

目地詰め（開水路）

カバープランツ（ティフ・ブレア）の植栽

目地詰め（ヒューム管）

破損施設の改修

水路に付着した藻等の除去

表面劣化に対するコーティング

## 農村環境向上活動

かけがえのない豊かな自然に恵まれたこの地域を次世代に継承するために、多くの非農業者とともに外来種の駆除や景観植物の植栽をしました。

連歌川の一斉清掃
オオカナダ藻の除去（外来種）

施設等の定期的な巡回点検（花蓮）

景観形成のための施設への植栽（コスモス）

景観形成のための施設への植栽（コスモス）

景観形成のための施設への植栽（そば）

セイタカアワダチ草の駆除（外来種）

## 促進費対象活動

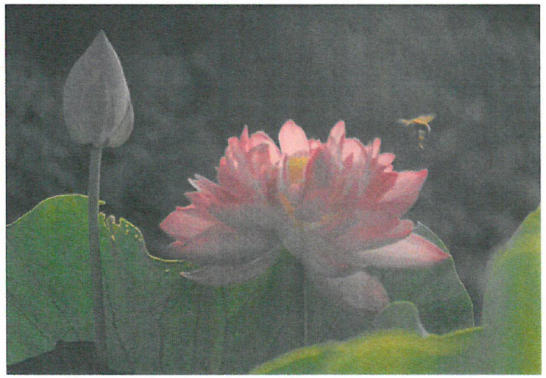
雑草繁茂を抑制するとともに除草作業の軽減が図られるよう農地法面に抑草シートを設置するとともに、連歌川にホタルや魚等の水生生物の生息場所（ベンチフリューム）を設置した。また、遊休農用地へ「花蓮」を植栽して訪れる人々を楽しませている。

抑草シートの設置

抑草シートPR看板

連歌川への魚類等の生息場所の設置

花蓮観賞



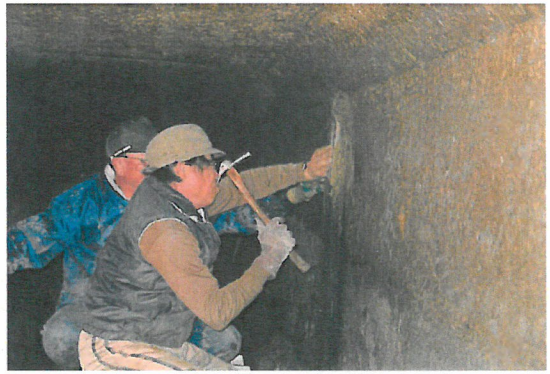
花蓮に舞う蜂

山口国体PR看板

## 自主施工による活動

これまでは、破損部分の補修等については行政に頼りきっていましたが、今は、施設の長寿命化につながる保全活動を自主施工しています。

ウインチ操作による泥上げ



サイホン式水路の破損部分の補修

サイホン水路の水抜き作業

随道内の汚泥の撤去作業

水路より除去した藻等の収集

ため枡の泥上げ

## 学校との連携による活動 ①

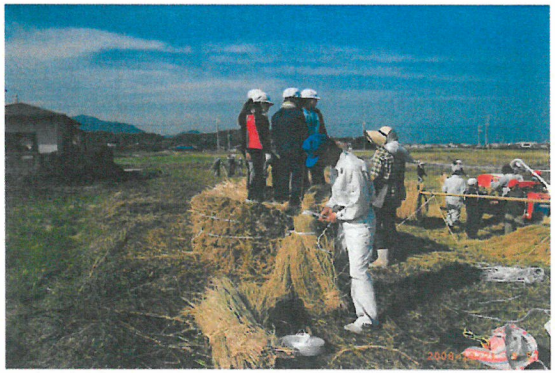
学校教育との連携により、NPOや棚田数え唄の会のメンバーが中心となって、田植え、稲刈り、生態系の調査等を行い次世代を担う子供たちに農業や生命の尊さ・自然の摂理を教えています。

田植え

はぜかけ作業

はぜかけ（出来上がり）

稲刈り



としゃくづくり

脱穀

## 学校との連携による活動 ②

学校教育との連携により、NPOや棚田数え唄の会のメンバーが中心となって、田植え、稲刈り、生態系の調査等を行い次世代を担う子供たちに農業や生命の尊さ・自然の摂理を教えています。

コンバインによる脱穀

千歯こき

芋の苗植え

麦踏

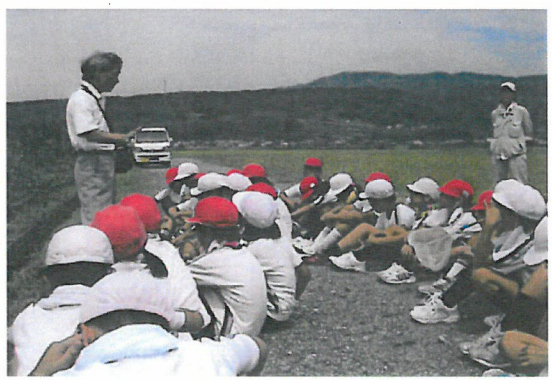
バケツ苗

やきいも

## 学校との連携による活動 ③

学校教育との連携により、NPOや棚田数え唄の会のメンバーが中心となって、田植え、稲刈り、生態系の調査等を行い次世代を担う子供たちに農業や生命の尊さ・自然の摂理を教えています。

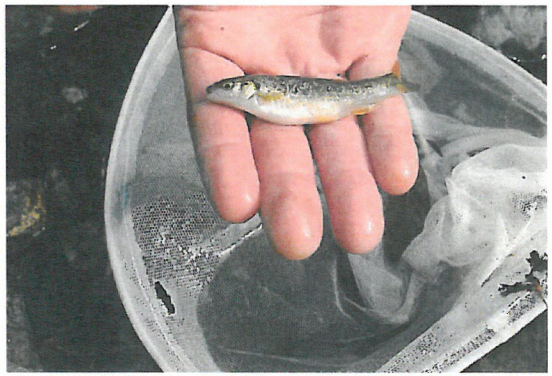
石臼によるきな粉づくり



生物の生息状況の把握

田んぼ周辺の生き物調査

餅つき



生物の生息状況の把握（うぐい）

田んぼ周辺の生き物調査（かわえび等）

## 学校との連携による活動 ④

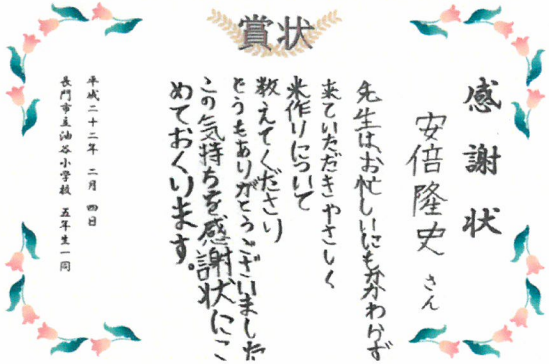
学校教育との連携により、NPOや棚田数え唄の会のメンバーが中心となって、田植え、稲刈り、生態系の調査等を行い次世代を担う子供たちに農業や生命の尊さ・自然の摂理を教えています。

わらじづくり

しめ縄づくり

感謝状贈呈式

お米パーティー（H21）



賞状

感謝状

安倍隆史 さん

先生はお忙しいにも拘わらず
来ていただきやさしく
米作りについて
教えてくださり
どうもありがとうございました
この気持ちを感謝状にこ
めておくります。

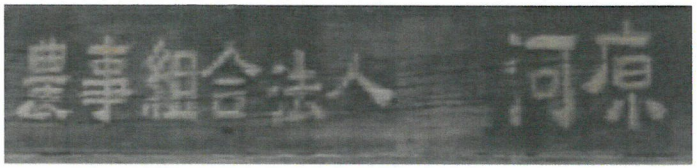
平成二十二年 二月 四日
長門市立油谷小学校 五年生一同

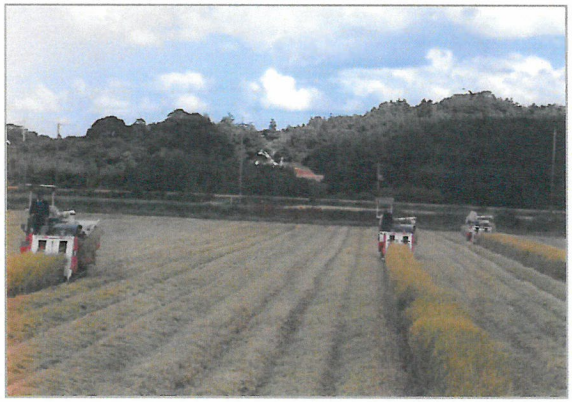
感謝状

ライスパーティの開催（H22）

## 河原八幡宮祭

農地・水・環境保全向上対策を契機に、数十年ぶりに「河原八幡宮祭」が復活した。また、この祭りの開催をきっかけに棚田数え唄の会が発足した。この祭りの中で棚田数え唄の会と小学生たちが中心となって「五穀豊穣」を祈願して、独特な踊りを披露し参加者を魅了している。そして、今では、地域最大規模のイベントとなって継承されている。



● 営農活動（先進的営農支援）

これまでも、「農事組合法人　河原」は、鶏糞を施用したエコ米の生産をおこなってきたが、JA長門大津と協議を重ねブランド米としての売り出しを模索してきた。

このような状況の中、平成23年度は16.7haに取組み、約60トンの生産を目標としている。また、ブランド名を「米づくり農家の自信作」として売り出す予定である。

# 棚田数え唄

作詞　中川和行

一、一つとせ　人の嫌がる　山の田を（ハ山の田を）日がな一日　畦を塗る
曲がりくねった　畦ばかり（ハ畦ばかり）腰も痛いが　手もだるい
あちシンドイナ（シンドイナ）

二、二つとせ　振り向き見ても　俺一人（ハ俺一人）牛を相手に　代を掻く
ねじれヨダヨタ　瓢箪田（ハ瓢箪田）廻るばかりで　ばかどらぬ
あちシンドイナ（シンドイナ）

三、三つとせ　右から見たら　達磨の田（ハ達磨の田）左を見れば　ミミズの田
ほんに行儀の　悪い田じゃ（ハ悪い田じゃ）センター網は　どこに張ろ
あちコマッタナ（コマッタナ）

四、四つとせ　夜明けの前から　飛び出して（ハ飛び出して）水の加減も
見にゃならぬ　早乙女様が　来る前に（ハ来る前に）苗を配って　了わねば
あちイソガシヤ（イソガシヤ）

五、五つとせ　いつも仲良し　隣組（ハ隣組）最合ひ最合はれ　田を植える
仲が良ければ　田もそろう（ハ田もそろう）今年も豊年　万作だ
あちウレシイナ（ウレシイナ）

六、六つとせ　虫も喰はネイ　米や要らぬ（ハ米や要らぬ）だけど喰はれぬ
方がええ　サバー湧いたら　虫送り（ハ虫送り）ユブノメイガは　捕まえろ
あちオモロイナ（オモロイナ）

七、七つとせ　夏の間に　よう育つ（ハよう育つ）秋のお日さま　穂にうけて
色も黄金に　よう熟れた（ハよう熟れた）お天道様に　ありがとう
あちヨカッタナ（ヨカッタナ）

八、八つとせ　八百よろずの神々　みそなはす（ハみそなはす）こぼるるような
この日和り　子供日曜は　稲運べ（ハ稲運べ）大きい兄ちゃん　籾運べ
あちイソカシイ（イソガシイ）

九、九つとせ　今年しゃ　豊年万作だ（ハ万作だ）お陰で　家中忙しい
今日が最後の　野良仕事（ハ野良仕事）一粒たりとも　ユボすなよ
あちアンシンジャ（アンシンジャ）

十、とせ　年のおわりの　村祭り（ハ村祭り）鎮守の森の　賑やかさ
老いも若きも　もろともに（ハもろともに）踊り唄えや　祝い酒
あちタノシイナ（タノシイナ）

## 「農地・水保全管理支払交付金」について想う

5年前2m近いセイタカアワダチ草の放棄田があり、長い畦畔には小笹と雑木が茂っていたこの地域で、なんとか昔のきれいな水の流れる自然豊かな農村にしたいとの思いで、保全会を立ち上げて地域のみんなで農業者任せにするのではなく、みんなで自分たちの住む環境を良くしていこうと取り組んできました。

今では、みんなが保全会の取り組みに感謝され、要望なども出され、老人から子供達も積極的に参加され、地域の中心的な存在になって来ています。

放棄田や畦畔にはコスモスが咲いたり・花蓮がきれいな花を咲かせて多くの人々が朝・夕の散歩道にしておられ、健康増進の一助にもなり、川にはメダカ・はや・うなぎがもどってきて、田んぼにはどじょう・タニシ・平家ホタルも見られるようになり、地域のみんながわいわいがやがやと話しながら作業したり、集会をするようになり八幡宮のお祭りも大変にぎやかになってきました。高齢者が大変多くなってきた今からは、このような国の事業がなくては農村の荒廃は進んでいくのではないでしょうか。

今、農村に住んでいる人たちを励まし、後継者を育てていくにはこの事業を長く継続していくことが大切であり、また日本の農業をまもっていく道ではないかと思います。より多くの地域でこの事業に取り組み地域ぐるみでの連帯を深め支えあっていくためにもみんなでこの事業の継続を訴えていっていただきたいと思います。